

**UNFCCC COP-6 ハイライト**

2000年11月18日土曜日

代表団は、作業を完了するため、午前中と午後、コンタクトグループや非公式の折衝で会合した。実施のための補助機関(SBI)は、夕方会合し、いくつかの主題での結論書草案を検討し、採択した。これには、国別報告書と資金メカニズム、また各セッションでの報告書が含まれる。これに続き、SBIと科学的・技術的助言のための補助機関(SBSTA)は合同会議を開き、キャパシティビルディング、議定書の下での遵守、共同実施活動、議定書メカニズム、悪影響に関する結論書草案を採択した。その後、SBSTAは、次の問題に関する結論書草案を採択した。土地利用、土地利用の変化、森林管理 (LULUCF)；議定書 5条(手法問題)、7条(情報の連絡)、8条(情報の検討)；技術開発と技術移転；政策措置；関連国際組織との協力に関する草案である。正式なSBSTA会合が11:15 pmに終了したのを受けて、9月にリヨンで始まり、11月13-18日にハーグで続けられたUNFCCC補助機関の第13回セッションは、閉会した。

**コンタクトグループと非公式折衝**

**メカニズム:**このコンタクトグループの午前中の会議で、Chow 議長は、この1週間の「全く非公式な」議論をベースにした改訂版文書が、まもなく始まる閣僚級交渉の土台を構成すると述べた。G-77/中国は、CDM文書の決定部分に関する意見提示が完了したばかりであることを報告し、この意見陳述の結果を改訂版文書に反映させるよう求めた。SBSTAとSBIの議長との協議の後、コンタクトグループは、議長友人グループ内での協議を行うこととし、会議をいったん閉会した。

コンタクトグループは午後半ばに再度会合し、Chow 議長は、特に文書の決定部分で前進が見られたことを報告した。同議長は、議論の詳細は、本日後半のSBI/SBSTA合同セッションで提出されると述べた。サウジアラビアは、遵守と参加に関する同国のコメントのいくつかが改訂文書で適正に反映されていないのではないかと懸念を表明した。多数の代表団が、Chow 議長の3年間にわたるプロセスの運営でリーダーシップを発揮してきたことへの感謝を述べ、コンタクトグループは閉会した。

**資金問題:** プロンクCOP6議長の要請を受けた資金問題グループは、午前中短時間の会議を行い、キャパシティビルディング、悪影響、技術移転のコンタクトグループで議論されている新しい基金の確立に向けた決定書草案の要素をまとめる共同議長の文書について議論した。Ashe共同議長は、議論の残り時間が少なくなっていることから、多くを達成する可能性は低いと述べた。

フィリピンは、G-77/中国の代わりに発言し、こういった資金問題を関連するコンタクトグループの外で考えるという手続きを拒否し、それは透明性もないし、民主的でもないと述べた。同代表は、米国や他の先進国の遅延戦術が、進展を阻害しているのは明らかであると付け加えた。EUは、進展を奨励するため努力していること、この会議の外でもさらに関連事項について討議する意志があり、またオープンにもしていることを強調した。米国はカナダと共に、進展の具合に焦燥していることを表明し、この状況に関するG-77/中国の懸念を払拭するため作業を継続することへの支持を示した。オランダは、プロセスの政府間特性を保つ上での透明性と民主性の役割を強調し、また進展を見るにはパートナーシップが重要であることも主張した。Ashe共同議長は、こういったステートメントを Pronk議長に伝えたと述べて、会議を閉会した。

**議定書 5条、7条、8条:** 代表団は、午前中このコンタクトグループの最終会議を開き、議長友人グループ会議で、文章にどういった進展があったかについてPlume共同議長によるまとめを聞いた。同議長は、グループが前日の夜中じゅう会合し、ほとんどカッコ書きを削除した作業ペーパーの改訂版が、土曜日の朝5.30 amに完成したと述べた。同議長は、残っているカッコ書きの多くが、編集理由のためであり、問題に関係するカッコ書きで残ったものは、他のコンタクトグループからの情報を受けとってからの策定できないこと、また第3の種類のカッコ書きは、政治的な性質のもので、来週解決されるであろう交渉プロセス全体に関わっていると述べた。その後代表団は、編集上の変更や本日遅くのSBSTA会合で検討される文書に反映されるべき提案をいくつか提示した。Plume共同議長は、ガイドラインについて何らかの形で来週さらに作業が進められることを告げて会議を閉会した。

**技術開発と技術移転:**このコンタクトグループでは、Cooper共同議長が、金曜日の夜に非公式の折衝が行わ

れたことに触れ、合意された文章が、決定書草案と付録の枠組み草案に付け加えられたことを告げた。同議長は、代表団に対し、その文書が正確かどうかを確認するため見ておくように奨めた。代表団は、枠組み草案の議論を始めた。時間が限られていることから、Afolabi共同議長は、キャパシティビルディングと技術移転メカニズムに関する枠組みの部分のカッコ書きにすることを提案した。決定書草案に対する共同議長提案について、代表団はUNFCCC 4.5条(技術開発と技術移転)を引用した決定書序文の文節一つを削除し、アジェンダ21の34章とアジェンダ21のさらなる実施プログラムでの関連条項を引用した文節のカッコ書きを外すことで合意した。時間の制約から、グループは、残りのカッコ書きがついたままの文書をSBSTAでの検討のため提出することで合意した。

**LULUCF:** LULUCFコンタクトグループは午後早くに会合し、進展がどれだけあったかを確認した。GwageとThorgeirssonの両共同議長は、議長友人グループの会合が、金曜日の夜11時間にわたって行われたが、次の文書作成を保証するに十分な数の問題で、共通認識に達しなかったと説明した。Thorgeirsson共同議長は、第1週での作業を第二週に伝えるためのSBSTA結論書の草案を配布した。同議長は、11月17日金曜日に提出した文章が配布分につけられていること、また編集されていない原則用序文が再度漏りこまれていると述べた。いくつかの代表団が、さらなる前進の必要性を強調した。

**悪影響:** コンタクトグループ共同議長のKjellén氏は、UNFCCC 4.8条と4.9条と議定書3.14条に関連する事項の実施決定書草案について、新しい共同議長文書と、4.8条と4.9条、3.14条そしてLDCsに関するワークショップの提案を含めた文書を提出した。代表団は、行動のベースとなる情報を、国別報告書や他の関連情報から派生させるべきか、それともこれら2つの情報源のうち一方だけから派生させるべきかどうかの議論を行った。代表団はこれら2つのオプションをカッコ書きすることとした。Kjellén共同議長は、4.9条実施の運用に関する文節を決定書草案の部分と置き換えておくとの合意がG-77/中国から発表されることに触れた。G-77/中国は、月曜日に新しいバージョンの文書を提出すると述べた。その後代表団は、決定書草案をSBI/SBSTA合同セッションでの検討にまわすことで合意した。

**政策措置 (P&Ms):** P&Msコンタクトグループの短時間会合において、代表団は文書に関する交渉の再開は行わないことで合意した。G-77/中国は、決定書草案の当初の題目である「条約附属書Iに含まれている締約国でのP&Msの『グッドプラクティス』」を希望すると述べ、米国、EU、サウジアラビアはこれに賛成した。代表団は、共同議長への感謝を表明し、会議は閉会となった。

## **SBI**

**国別報告書: 附属書I締約国:** SBI Ashe議長は6:00 pmに会合を開いた。附属書I締約国から提出される1990年から1998年までの温室効果ガス目録データの国別報告書についての結論書草案が採択された。(FCCC/SBI/2000/CRP.14)

**非附属書I締約国:** Ashe議長は、資金援助と技術援助の提供に関する結論書草案(FCCC/SBI/2000/CRP.12)と、専門家諮問グループの第2回会議報告書での結論書草案(FCCC/SBI/2000/CRP.13)を提出した。また同議長は、非附属書I締約国の初期国別報告書の第二回まとめと統括に関する結論書草案(FCCC/SBI/2000/L.5)も提出した。3つの文書全てが採択された。

**資金メカニズム:** Ashe議長は、地球環境ファシリティーのCOP向け報告書結論書草案を提出した。(FCCC/SBI/2000/CRP.15) その後同議長は、資金メカニズムのoperating entity運用組織)に対する追加的なガイダンスの結論草案を提出した。(FCCC/SBI/2000/CRP.16/Rev.1) そして資金メカニズムコンタクトグループのGroves共同議長に対し、議論の結果の報告書を提出するよう求めた。Groves共同議長は、第IIステージの適応活動に関する資金の問題について、G-77/中国がCOP-4での決定(2/CP.4)を改善することで、第IIステージの適応活動が国別報告書、または脆弱性の詳しい研究をベースにできるように希望していると述べた。同議長は、附属書II締約国が、COP-4での決定について、小島嶼途上国(SIDS)やLDCsがその脆弱性だけをベースに資金を受けることができるようにという柔軟性を加えたCOP4決定の推進保持を希望していると述べた。悪影響グループでの意見陳述に関係する文書では合意にいたらなかった。

米国とEUは、アルゼンチンがSBIで提案した国別報告書の文章でコンタクトグループがカッコ書きのまま残した文章からカッコ書きを外すという案に反対した。G-77/中国は、資金メカニズムでの合意がなかったことへの落胆の意を表明し、アルゼンチン、AOSIS、サウジアラビアなどの途上国が中国の意見を支持した。

**管理上、資金上の事柄:** 寄付金の支払い遅れに対応する可能なオプションについて、SBIは、Ashe議長の提案で、SB-14までこの副主題の検討を延期することに合意した。2000年での中間財務実績に関して、SBIは2000年10月31日現在での締約国からの寄付金受け取りに関する状況報告書を検討するよう求められた。(FCCC/SBI/2000/INF.11)締約国は、寄付金の最新の状況をメモした。COP-6で検討される決定書草案が、SB-13第I部で最終的なものとされた。(FCCC/CP/2000/1/Add.1)

本部契約書の実施について、Ashe議長は、ボンの事務局に関しオフィススペースと査証上の困難について問題が提起されていることを指摘した。ドイツは、UNFCCCと砂漠化防止条約の両事務局の共同使用のため、かつての国会議員用オフィスを提供することで、11月14日に合意したと述べた。同代表は、他の直面する問題についても努力が続けられていることを指摘した。SBIは、こういった発言があったことを述べた結論書草案を採択し、ドイツに対しそのオファーに感謝するとともに、Executive Secretaryに対し、将来のセッションで進行状況を報告するよう求めた。

**その他の事項:** SBIは、2002-2003年度の予算プログラムに関して、COP-7での予算採択を推薦するとの見地から、SB-14で検討すると合意した結論書も採択した。議定書7条と8条に関する問題で、SBIはガイドラインに関する結論をCOP-6での採択にまわすことで合意した。その後SBIは、第13回セッションの第2部に関する報告書を採択した。

### **SBI/SBSTA 合同セッション**

**キャパシティビルディング:** SBIのAshe議長は、合同会議を開催し、経済移行国(EITs)と途上国でのキャパシティビルディングに関するコンタクトグループで共に共同議長を務めたJukka Uosukainen氏にグループでの作業について報告することを求めた。

EITsでのキャパシティビルディングについて、Uosukainen共同議長は、EITsでの行動の範囲と基盤を設定し、EITの政策優先度を見極め、枠組み実施でのEITsの責任と、EITsを支援する附属書II締約国の責任をまとめた枠組みで合意がなされたと述べた。

同議長は、枠組みが、UNFCCC 実施に関するキャパシティビルディング活動を指導するものでなければならないことも合意したと述べた。同議長は、資金問題に関する当面の問題が、クロスカutting(部門横断的)な特性を持っていることを指摘し、このことは、資金メカニズムについて作業を行っているグループに伝えたことと述べた。また、現在4.8条と4.9条の下で検討されている適応措置と国内行動プログラムの実施に関してもクロスカutting(部門横断的)な特性を持っていると指摘した。G-77/中国からの、資金問題をどう解決するのかという質問に答えて、Ashe共同議長は、来週閣僚級会議で討議されることになると述べた。代表団は、EITsでのキャパシティビルディングに関するSBSTA/SBIの決定書草案(FCCC/SB/2000/CRP.17)と途上国でのキャパシティビルディングに関するSBSTA/SBIの決定書草案(FCCC/SB/2000/CRP.16)をCOPでの検討にまわすことで合意した。

**遵守:** 遵守に関する共同作業グループのNeroni Slade共同議長は、SB-13 第II部での作業に関する同グループの報告書(FCCC/SB/2000/CRP15/Rev.1)を提出した。同議長は、代表団が、先週公式、非公式の会議で討議したと述べた。同議長は、グループでの作業中各代表団が建設的な努力をしたことを強調した。また、締約国からの2つの提出書類が、不本意にも省略されていたと述べた。原則でのオプション1は、FCCC/SB/2000/11にあるオプション1に置き換えることとする。また「The procedures and mechanisms on compliance shall operate without prejudice to any Multilateral Consultative Process as referred in Article 16. (遵守に関する手続きとメカニズムは、16条にあるように、いかなる多国間の諮問プロセスからも影響されずに運営される)」という文章を、16条との関係という文節に加える事とする。最後の節に追加オプションを入れるというニュージーランドからの要請について、Slade共同議長は、締約国が書類についてコメントする機会を与えられると述べた。その後、EUは、いくつかのカッコ書きを入れるよう求めた。Slade共同議長による修正を受けた報告書が、COPにまわされることとなった。

**共同実施活動:** メカニズムコンタクトグループのChow議長は、決定書草案作成となった非公式折衝について報告した。SBI/SBSTA合同会議は、提案された結論書草案(FCCC/SB/2000/CRP.23)で決定書草案を含んだものを、COPでの検討にまわすことで合意した。

**メカニズム:** Chow 議長は、6条、12条、17条に基づくメカニズムについての結論書草案(FCCC/SB/2000/CRP.19, CRP.20 と付.1, CRP.21, and CRP.22に含まれる)を提出した。同議長は、誤って省略された文章があることを指摘し、これは月曜日に回覧される改訂文書で直されると述べた。

G-77/中国は、基本的な立場を改めて述べ、それにはCDMの即時開始；特にLDCsとSIDSでのキャパシティビルディングの必要性；補足性、ベースライン、additionality（追加性）、モニタリング、検証と公平性の問題；適応資金；CDMでの公平な扱い；持続可能性に関するプロジェクトの貢献について主催途上国が単独で判断する権利が含まれていた。同代表は、補足性の定義などいくつかの問題が文書では省略されていると述べた。

サウジアラビアは、文書に移行性とfungibility再現性が載っていないと述べ、オーストラリアは省略されている文書について、書面での提案を提出した。Chow議長のリーダーシップに感謝した後、代表団は結論書草案を採択した。

**悪影響:** コンタクトグループのSalamat共同議長は、UNFCCC4.8条と4.9条そして議定書 3.14条に関連する事項の実施に関する結論書草案(FCCC/SB/2000/CRP.18)を提出した。同議長は、議論での協力の精神を強調した上で、文書が完全に合意されたものではないと述べた。同議長は、資金に関する全ての問題は、資金問題グループで考慮されるべきだというPronk議長のガイダンスについて指摘した。

G-77/中国は、4.8条と4.9条のグループの重要性を強調し、資金源の問題がカッコ書きになっていることへの懸念を表明した。同代表は、サウジアラビアとともに、4.8条と4.9条に関する決定と3.14条に関する決定と2つを分離するよう求めた。EUと、米国、カナダは、結論書草案が、一つの決定であろうと2つの決定であろうと区別していないと述べた。LDCsは、自身の気候変動への脆弱性や対応策への脆弱性を強調した上で、文書でのカッコ書きの量に懸念を表明した。コロンビア、チリ、ベネズエラは、全ての途上国の脆弱性を強調した。Ashe議長は、9:55 pmでSBI/SBSTA合同会議を閉会した。

#### **SBSTA**

**LULUCF:** Dovland議長によるSBSTA会議の開会に続いて、LULUCFコンタクトグループのThorgerirsson共同議長が、COPにまわすべき決定書草案(FCCC/SBSTA/2000/CRP.11)を提出し、運用可能な文書に関する作業では、締約国が提案する原則に従ったことを指摘した。同議長は、セッションでの結果の概要を報告し、メカニズムの下での吸収に関する技術的な助言と、締約国からの提出書類を提供した。同議長は、セッションでは懸念だけでなく楽観的な見方も強調され、それには、環境上、社会上の悪影響や恒久性、リーケージといった問題に対する解決法の提案が含まれると述べた。同議長は、プロジェクトのタイプによって手法問題は異なることを強調し、この問題での共通認識はみつからなかったと結論づけた。SBSTAは結論書草案を採択した。

**5条、7条、8条:** コンタクトグループ共同議長のPaciornikは、COP/MOP-1が5.1条(国内システム)の下でのガイドラインを採択するよう推奨するSBSTAの結論書草案 (FCCC/SBSTA/2000/CRP.16)と、5条、7条、8条の下でのガイドラインに関するSBSTA結論書草案(FCCC/SBSTA/2000/CRP.17)を提出した。同議長は、これらのガイドラインにはまだカッコ書きの文章が含まれているが、議定書の信頼性を確保するための進展があったと述べた。同議長は、未解決の問題が政治的または技術的な特性を持つものであるか、他のグループでの結論を待っているものであると説明した。同議長は、省略があるのを解決するため、この書類の修正版が、来週始めに発行されると述べた。SBSTAは、両方の結論書草案を採択した。

**約束期間における排出についての単一プロジェクトの影響:** Plougman議長は、この問題についての討議が、「ほとんど合意された」決定書草案(FCCC/SBSTA/2000/CRP.13)となったことを報告した。SBSTAは、この問題の結論書草案を採択した。

**技術開発と技術移転:** Afolabi共同議長は、Cooper共同議長と共に、コンタクトグループでは6回の会議と数回の非公式折衝を行ったと報告した。同議長は、4.5条の実施強化のための枠組み草案では、技術的なニーズとニーズの評価、技術情報、そして可能にする環境の3つのテーマで合意された文書があり、技術移転のためのキャパシティビルディングとメカニズムという2つのテーマでは、カッコ書きが残っていると指摘した。同議長は、全ての可能な行動について議論し、検討するには、もっと時間が必要であると述べた。G-77/中国は、4.5条実施の重要性を強調した上で、一部の締約国がその約束の実施を怠っていることへの懸

念を表明し、当面の問題で進展を見ることの必要性を力説した。SBSTAは、決定書草案と付録の枠組み草案を含めた結論書草案(FCCC/SBSTA/2000/CRP.15)を採択した。

**政策措置(P&Ms):**Roméro共同議長は、結論書草案(FCCC/SBSTA/2000/CRP.14)を提出した。同議長は、P&Msやワークショップでの経験を交換することの価値について合意したことを指摘し、また実証可能な前進について意見が分かれたことも指摘した。代表団は、結論書草案を採択した。

**他の事項:**代表団は関連する国際組織との協力に関する結論書草案(FCCC/SBSTA/2000/CRP.12)も採択した。まとめとして、SBSTAは、その作業に関する報告書案(FCCC/SBSTA/2000/CRP.12)採択した。Dovland議長は、11.15 pmにセッションを閉会した。

**廊下にて:**代表団はハーグでの最後の週に入るが、交渉のテーブルには、まだ政治的な問題や技術的な問題が、積み上げられている。先週の非公式な交渉で得られた進展を考えると、特に議定書 Articles 5条、7条、8条に関してカッコ書きを外す動きがあったことを一部のオブザーバーは指摘している。しかし多少の進展があったとはいえ、大半の参加者は、閣僚や代表団の団長が技術的な問題に邪魔されることなく数件の政治的な決着に集中できるようにするには、残った作業量が十分削減されたとは言えないと感じている。

最終週に入った交渉の状況を検討すると、いくつかの途上国代表団は、資金やキャパシティビルディング、技術移転といったG-77/中国にとっての優先事項における進展を阻止する試みがあると信じ焦燥感を表明している。これら途上国は、こういった優先問題こそCOP6で何らかの合意に達し、「これらにふさわしい認識」が与えられるべきであると主張している。いくつかの途上国から参加しているものは、いわば「かたつむりのペース」での議論の進展に懸念を表明している。

代表団の間で議論されているもう一つの問題は、最終週についてCOP-6のJan Pronk議長が予定しているプロセスである。閣僚を3つの交渉グループに分けて当面の問題を検討するというPronk 議長の提案は、G-77/中国内部で懸念を生じている。しかし一部のオブザーバーは、COP-6議長が最も効果的とした方法でプロセスをリードするのは、議長の権限であることを強調している。これをどう達成するかの不確実性にもかかわらず、これらオブザーバーは、これからの進展に暫定的ではあるが信頼を表明している。

## **本日の出来事:**

**COP-6プレナリー:** COP-6代表団は、Prins Willem Alexander Hallで10:00 amに会合し、2回目の会議は、3:00 pmに始まる予定である。組織上の問題や補助機関の報告を討議した後、プレナリーは、オブザーバー国や非政府組織の正式コメントを聞く予定である。これら正式コメントと平行して、午後には交渉が再開される可能性が高い。

詳しくは電子掲示板を参照。

(和訳作成: GISPRI / IGES)